

毎年、保護者の皆さんに要望書記入用紙をお配りしており、いく人かが要望を出されています。懇談会は市からの回答に対し、その詳しい説明を聞く会です。

協議会からは支援員や相談員が参加しており、保護者の立場で参加していたのはAさんお一人でした。1時間半という短い時間に当事者の代弁として、質疑応答が繰り返されます。福祉事業は国の制度に則って運営しているため、市職員は安易に回答することができず、「今後も改善に努めてまいります。ご相談いただければ対応します」と、ありがたき言葉が繰り返される中、Aさんはドキドキしながらも声を上げました。内容は 受給者証の日数の増加を担当課に相談した時に、①口外したくない個人情報を言わざるを得ず辛い思いをしたこと、②日数を増やすかどうかは市の判断であることを告げられました。その上、後日、日数を増やせない旨を一方向的に理由も言われず告げられたことなどを伝えました。初めての発言でとても緊張している様子でしたが、私は「親として子どもの権利を主張しているAさんはかっこいい!」と、素直に思いました。

市からは、不快な思いをさせてしまったことを謝罪する言葉がありました。そして、障連協から参加した仲間が「窓口の職員は委託なのか?正職員なのか?」の質問に対して、「委託だろうが正職員だろうが市の職員であり、あるまじき行為です。担当課に内容は伝えておきます。」と回答がありました。この回答で、理由もなく、申請した日数を却下されるのはおかしいことなのだと、理解できました。

障がいがあっても幸せに暮らす権利があります。市民である利用者や保護者、また毎日関わる支援員さんの苦労や制度の理不尽などを訴えなければ、現場で起こっている大変さや権利を蔑ろにされている事は伝わりません。一度の要望で叶う事は難しいですが、実態を伝え続けることに意味があると感じました。そして何よりも当事者保護者からの声が大切です。20年後、30年後の子どもたちの暮らしが良くなるように、今から訴え続けることは大切です。この様に権利を守ることや、守られている先進国の話を聞く研修を11月4日に行います。福祉国家である北欧の現場を19回に渡り視察してきたJDの菌部英夫氏の研修を対面で行います。ぜひ、この機会に一緒に学びましょう!以下、参加したAさんの感想を掲載します。

- ・障害当事者の要望を代理で伝えて下さっている支援者がたくさんいた事、また、懇談会が対面な事もあり、市職員の方が発言者の気持ちを汲み取ってくれているように思いました。
- ・要望の中には毎年同じ項目もあります。行政側は担当部署の人事異動がありその後、要望に対してどう引き継がれているか確認されていて、大切なことは繰り返し伝えるべきだと思いました。
- ・保護者として、子どもたち本人が言えない気持ちを伝えていく事の大切さを理解しつつ、実際は事業所の支援員さんが伝えて下さっている方が多いのが現状なのだと痛感しました。日々、仕事や育児、家事に忙しくつつい将来の事を深く考えていません。(深く考えないようにしているのかも)しかし、まずは我が子が 大人になる事を考え、先を見据え学ぶ大切さを感じました。

郡 奈美

第9回

みんなで行こう! 三つ峠

サマーキャンプ

IN とずのき村

今年のサマーキャンプはお天気にも恵まれ、子ども8名ボランティアさん9名の参加でした。初めての子どもいれば2回目の参加の子もいて、ドキドキワクワクしながらキャンプ場まで向かいました。到着すると荷物整理やベットメイキング。いつもはお家の人がやってくれるのでシーツを敷くのも一苦労でしたがボランティアさんが優しく手伝ってくれました。晩ご飯のカレーも自分たちで作り、おなかいっぱい!カレーを食べた後はキャンプファイヤー!ここ23年は雨が降りキャンプファイヤーができなかったのですが、今年は降らず、歌って踊って大盛り上がりでした!

2日目はツリーイング!どのロープに登るかどこまで登るか、いつ木から降ろしてもらうかを自分で決めて行きます。低い位置でブランコのように揺れる子や登れるところまで登り切る子、ハンモックでくつろぐ子などそれぞれが楽しんでいました。キャンプ場を出発する時、楽しすぎてまだ帰りたくないと言えぬ子が居たほど楽しい時間を過ごしました。

最後に、子どもたちを送り出してくださった保護者の皆様、2日間子どもたちの側にいて一緒に楽しみ、不安や緊張していた子どもたちと一緒に寄り添い遊び笑顔へと変えていってくださったボランティアの皆様。あたたかいサポートのおかげで2日間のキャンプを無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

※Facebookにも当日の様子を掲載しています。是非ご覧ください。



夏祭り

Nアイテラス利倉



特別養護老人ホームアイテラス利倉さんの部屋をお借りして夏祭りを開催しました。この施設は地域の為に無料で部屋を貸し出していて、コロナ前によく利用させて頂いていました。この施設が初めての子がほとんどでしたが、混乱はありませんでした。それよりもお店番の子どもたちが出迎えてくれると「はやく遊びたい!」とウキウキの子どもたち。

出店はカラフルボールキャッチ・パズル・金魚すくい・工作・おやつコーナーとボリューム満点。遊びのコーナーは夏祭りに向けて日々の活動で楽しんでいたので、子どもたちも楽しみ方をわかっていてどんどんお店を回っていました。金魚すくいでは、金魚の他にクワガタや恐竜も浮かべていて、クワガタに目を付けた子は「もう一回したい!」とボーイが破れても何度も遊んで沢山持って帰っていました。

以前『きょうだいキャンプ』に参加したきょうだいさんたちにお店番をお願いしました。久しぶりに会うときょうだい同士でと意気投合し、夏祭りを盛り上げてくれました。ご協力して頂いたきょうだいの皆様、ありがとうございます。久しぶりのアイテラス利倉での夏祭りは子どもたちの笑顔が沢山見ることができました。